

（仮称）佐倉市におけるこれからの 学校のあり方に係る基本方針について （第 2 章・第 4 章）

佐倉市教育委員会
令和7年5月14日

- 基本方針の構成・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2ページ
- 第2章 目指すべきこれから・・・・・・・・・・ 4ページ
の学校教育のあり方
- 第4章 学校教育の課題・・・・・・・・・・ 16ページ
- （参考）令和7年度児童生徒数（5/1時点）・・ 20ページ

第1章 基本方針とは

第2章 目指すべきこれからの学校教育のあり方

第3章 学校教育の現状

- (1) 児童生徒数の減少に伴う影響への対応に関すること
- (2) 時代の変化に対応した最適な指導・学習に関すること
- (3) 多様な教育ニーズへの対応に関すること
- (4) これからの学校と地域の関わり方に関すること
- (5) 将来を見据えた学校施設の整備に関すること

第4章 学校教育の課題

第5章 目指すべきこれからの学校教育のあり方の実現に向けた取組の方向性

第6章 今後の進め方

今回の議論対象箇所

第2章

目指すべきこれからの 学校教育のあり方

理想と現実のギャップ

第3章

学校教育の現状

第4章

学校教育の課題

第5章

目指すべきこれからの学校教育のあり方の実現に向けた取組の方向性

第2章

目指すべきこれからの 学校教育のあり方

理想と現実のギャップ

第3章

学校教育の現状

第4章

学校教育の課題

第5章

目指すべきこれからの学校教育のあり方の実現に向けた取組の方向性

第2章 目指すべきこれからの学校教育のあり方



- 教育委員会は、当該地方公共団体が処理する教育に関する事務で、次に掲げるものを管理し、及び執行する。（地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「法」という）第21条）

学校教育

社会教育

文化財

スポーツ



法第23条の規定により市長部局に事務移管

教育基本法や学校教育法等を踏まえ、佐倉教育ビジョンの基本理念を実現する、学校教育のスローガン（目指すべき姿）を設定し、児童生徒や保護者、市民と共有していく必要があるのでは？

～第3次佐倉教育ビジョン～

【基本理念】

私が輝き、地域が輝き、未来が輝く “佐倉の人づくり”

【めざすべき佐倉市民像】

- （１）思いやりのある豊かな心を持ち、自然や文化を大切にする人
- （２）よく学び、自ら考え、進んで行動する人
- （３）佐倉への愛着と国際的な視野を持って社会に関わる人

第2章 目指すべきこれからの学校教育のあり方

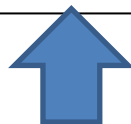


～第3次佐倉教育ビジョン～

【基本理念】私が輝き、地域が輝き、未来が輝く“佐倉の人づくり”

【めざすべき佐倉市民像】

- (1) 思いやりのある豊かな心を持ち、自然や文化を大切にする人
- (2) よく学び、自ら考え、進んで行動する人
- (3) 佐倉への愛着と国際的な視野を持って社会に関われる人



目指すべきこれからの学校教育のあり方



こどもたちやその保護者、
市民の思いや考え
(アンケート調査)



懇話会意見



教育振興基本計画
(国・県)

こどもたちやその保護者、市民の思いや考え（アンケート調査）



○ どのような大人に育ってみたいと考えますか？（大人用設問）、将来どんな大人になることが大切だと思いますか？（児童生徒用）

	N=3,524 児童		N=3,200 生徒		N=2,045 児童保護者		N=1,156 生徒保護者		N=334 小学校教員		N=221 中学校教員		N=1,116 市民		N=345 未就学児 保護者	
佐倉のよさがわかり、 佐倉のまちを大切に できる人	874	24.8%	202	6.3%	74	3.6%	32	2.8%	36	10.8%	20	9.0%	113	10.1%	15	4.3%
積極的に学び行動す る人	432	12.3%	636	19.9%	685	33.5%	406	35.1%	86	25.7%	48	21.7%	287	25.7%	107	31.0%
他人に対する思いや りのある人	2,157	61.2%	2,180	68.1%	1,484	72.6%	818	70.8%	260	77.8%	167	75.6%	752	67.4%	249	72.2%
良いことと悪いこと の区別をきちんと判 断し、行動できる人	1,767	50.1%	1,744	54.5%	1,362	66.6%	747	64.6%	225	67.4%	150	67.9%	752	67.4%	217	62.9%
豊かな知識を持つ人	612	17.4%	519	16.2%	191	9.3%	139	12.0%	10	3.0%	13	5.9%	112	10.0%	26	7.5%
社会の役に立つこと を進んでできる人	818	23.2%	591	18.5%	173	8.5%	115	9.9%	64	19.2%	48	21.7%	149	13.4%	19	5.5%
新しいものに挑戦し、 何事にも一生懸命に 取り組める人	1,066	30.2%	914	28.6%	702	34.3%	371	32.1%	97	29.0%	64	29.0%	328	29.4%	116	33.6%
国際的に活躍できる 人	256	7.3%	280	8.8%	144	7.0%	67	5.8%	8	2.4%	9	4.1%	93	8.3%	36	10.4%
自己を表現し、個性 を発揮できる人	538	15.3%	853	26.7%	404	19.8%	212	18.3%	42	12.6%	31	14.0%	167	15.0%	74	21.4%
多様な考えがあるこ とを認識し、協力し て行動できる人	658	18.7%	892	27.9%	767	37.5%	451	39.0%	158	47.3%	102	46.2%	489	43.8%	150	43.5%

こどもたちやその保護者、市民の思いや考え（アンケート調査）



○ 学校でどんなことを学び、身につけたいですか？

	N=3,524		N=3,200	
	児童		生徒	
確かな学力を身につけること	1,574	44.7%	1,596	49.9%
夢や希望をもって歩む力を身につけること	1,380	39.2%	1,027	32.1%
コミュニケーション能力を身につけること	1,508	42.8%	1,700	53.1%
社会の中で役に立つ力を身につけること	840	23.8%	922	28.8%
伝統・文化を受け継いでいくこと	234	6.6%	90	2.8%
健康な生活を送り、体力の向上に努めること	977	27.7%	635	19.8%
人として正しい行動ができるようになること	1,573	44.6%	1,632	51.0%
世の中のさまざまなことを知り、物事の見方・考え方を身につけること	425	12.1%	582	18.2%
ICTの活用能力を身につけること	160	4.5%	131	4.1%
英語を身につけ、国際的にも活躍できる力を身につけること	572	16.2%	427	13.3%

こどもたちやその保護者、市民の思いや考え（アンケート調査）



○ 佐倉市の学校教育でこれからどんなことに力を入れていくのが望ましいと思いますか？

	N=2,045		N=1,156		N=334		N=221		N=1,116		N=345	
	児童保護者		生徒保護者		小学校教員		中学校教員		市民		未就学児保護者	
タブレット端末を活用した授業	404	19.8%	258	22.3%	91	27.2%	59	26.7%	148	13.3%	68	19.7%
英語教育	989	48.4%	548	47.4%	35	10.5%	18	8.1%	422	37.8%	171	49.6%
勤労観や職業観を育むための教育（キャリア教育）	631	30.9%	436	37.7%	65	19.5%	57	25.8%	338	30.3%	94	27.2%
幼稚園・保育園と小学校の連携	61	3.0%	14	1.2%	28	8.4%	5	2.3%	47	4.2%	30	8.7%
小学校と中学校の連携（義務教育9年間を見渡した教育）	449	22.0%	137	11.9%	95	28.4%	73	33.0%	237	21.2%	59	17.1%
学校図書館（図書室）の充実（蔵書や司書の配置）	169	8.3%	61	5.3%	25	7.5%	11	5.0%	76	6.8%	24	7.0%
道徳教育	535	26.2%	265	22.9%	50	15.0%	30	13.6%	386	34.6%	88	25.5%
健康増進と体力の向上を図ること	534	26.1%	285	24.7%	73	21.9%	52	23.5%	299	26.8%	101	29.3%
障害がある子どもたちへの支援体制の充実	177	8.7%	64	5.5%	69	20.7%	30	13.6%	146	13.1%	22	6.4%
いじめや不登校への支援体制の充実	447	21.9%	234	20.2%	128	38.3%	97	43.9%	378	33.9%	88	25.5%
教員の資質や指導力の向上	601	29.4%	379	32.8%	113	33.8%	57	25.8%	395	35.4%	112	32.5%
学校の施設整備	407	19.9%	239	20.7%	154	46.1%	110	49.8%	141	12.6%	77	22.3%
放課後活動の充実（学習、部活動など）	345	16.9%	255	22.1%	8	2.4%	21	9.5%	125	11.2%	43	12.5%

- 教育の方向性については心を育てることが最も重要。
- こどもたちの方がおそらく柔軟な発想で、大人よりも先に行ける気がするのに、それを大人が止めているような感覚。
- どうやって「生きる力」を養うのかという点で、好きなことを見つけて好奇心を持ってチャレンジをして、誰かに褒められることが重要。
- 弱いところを補うよりも、伸びているところを更に伸ばす方が、人の可能性が広がると思う。
- 学校の目標とすることは、「こどもたちが良い将来をおくれる」ということにあると思う。
- 学力は「学ぶ力」で、大人になってから学校の先生はいなくて、誰にも教われない中で、自分で学んでいく力だと思う。
- 失敗は、自ら気が付いて学ぶということで、非常に大事。
- 人に教えてまたさらに自分の可能性を感じたりする子とかもいると思うので、教室の中で、こどもたちの中でも伸ばせられる環境を作るのがいいのかなと思う。
- 他の人と競争するのではなく、昨日の自分と競争することで成長が実感できる。
- どんな暮らし方をしたくて、それに必要な学びって何？という風になると、主体性が生まれるような気がする。

○ 第4期教育振興基本計画（令和5年度～令和9年度）

【社会の現状や変化】

- ・国際情勢の不安定化・VUCAの時代（変動性、不確実性、複雑性、曖昧性）・少子化・人口減少や高齢化
- ・グローバル化・地球規模課題・DXの進展、AI・ロボット・グリーン（脱炭素）
- ・共生社会・社会的包摂・精神的豊かさの重視（ウェルビーイング）・雇用の流動化 等

持続可能な社会の 創り手の育成

- 将来の予測が困難な時代に、未来に向けて自らが社会の創り手となり、持続可能な社会を維持・発展させていく人材を育てる
- 主体性、リーダーシップ、創造力、課題設定・解決能力、論理的思考力、表現力、チームワークなどを備えた人材の育成

日本社会に根差した ウェルビーイングの向上

- 多様な個人それぞれが幸せや生きがいを感じるとともに、地域や社会が幸せや豊かさを感じられるものとなるよう、教育を通じてウェルビーイングを向上
- 幸福感、学校や地域でのつながり、協働性、利他性、多様性への理解、社会貢献意識、自己肯定感、自己実現等を調和的・一体的に育む

教師のウェルビーイング、 学校・地域・社会のウェルビーイング

日本社会に根差した
ウェルビーイングの向上

子供たちのウェルビーイングを高めるためには教師をはじめとする学校全体のウェルビーイングが重要。また、子供たち一人一人のウェルビーイングが、家庭や地域、社会に広がっていき、その広がりが多様な個人を支え、将来にわたって世代を超えて循環していくという姿の実現が求められます。



○ 第4期千葉県教育振興基本計画（令和7年度～令和11年度）

第2章第2節 千葉県教育の目指す姿（基本構想編）

本県教育をめぐる現状や課題等を踏まえ、教育政策の根本となる基本理念を掲げ、この理念の下、3つの基本目標と本県教育の目指す姿を示す。

**【基本理念】 人生をしなやかに切り拓き、千葉の未来を創る「人」の育成
～一人一人が可能性を最大限に伸ばし、自分らしく活躍するために～**

【基本目標・目指す姿】 基本理念を実現するための3つの基本目標と、千葉県教育の10年後のあるべき姿

基本目標 1 子供たちの自信を育む教育の土台づくり

- ・校務DXを通じた働き方改革や業務改善の見直し、外部人材活用による「チーム学校」づくりの推進が図られている。
- ・教職員が心身ともに健康でやりがいを持ち、子供が学ぶ意欲を高める魅力的な教育環境が整っている。
- ・優れた資質を有する教員の採用が進み、教員が高い使命感を持ち、指導力向上に取り組んでいる。
- ・いじめ、不登校、児童虐待、ヤングケアラー、子供の貧困など、誰一人取り残されない教育環境の整備が進んでいる。
- ・教職員が自らの言動が児童生徒の成長に大きな影響を与える責任を自覚し、職務の遂行に専念することで児童生徒等から信頼を得ている。
- ・互いの多様性を認め合い、一人一人の可能性を最大限伸ばす教育が実現している。

基本目標 2 未来を切り拓く「人」の育成

- ・未来を切り拓くための知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう態度が育っている。
- ・デジタル機器教材が日常的に活用されている。
- ・自他の生命と尊厳を大切にできる豊かな人間性と道徳性が育成されている。
- ・学校・地域社会・産業界等が連携協働したキャリア教育支援体制が構築され、社会に求められ活躍できる人材が育成されている。
- ・探究・STEAM教育や魅力ある文理融合的な学びが推進され、性別に関わらず新たな技術や価値を創造する人材が育っている。

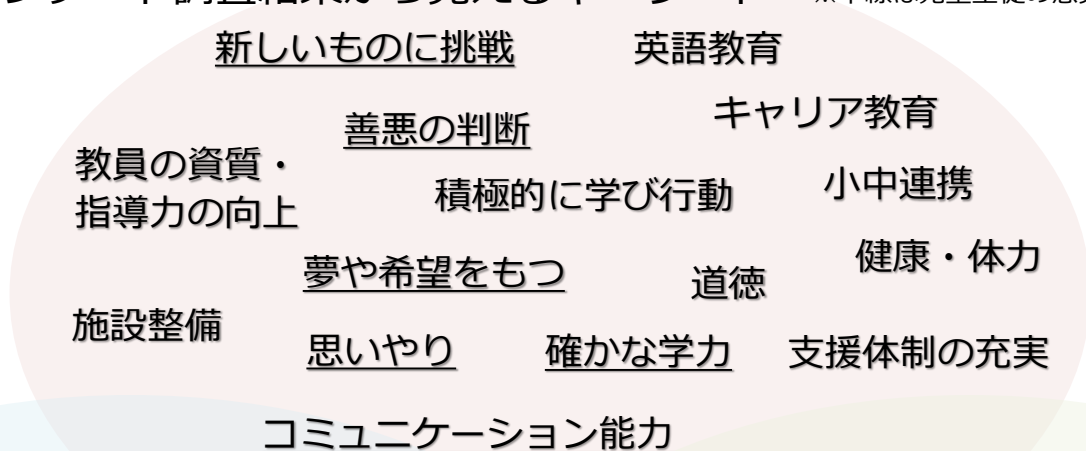
基本目標 3 地域全体で子供を育てる体制と 全ての人が活躍できる環境づくり

- ・コミュニティスクールと地域学校協働活動が一体的に機能し、保護者や地域住民が責任をもって学校運営に参画している。
- ・ICT活用の効果的な活用等により、学校・家庭・地域のつながりや関わりが生まれ、協力し合える土壌がつけられている。
- ・地域や外部の人材の協力を得て、部活動の地域展開が図られている。
- ・障害の有無や年齢等に関わらず、誰もが文化芸術を実践・鑑賞できる環境が整備されている。
- ・県民が各ライフステージに応じた多様なスポーツに親しみ、心身ともに健康で活力ある生活を送っている。

各主体からのキーワード



～アンケート調査結果から見えるキーワード～※下線は児童生徒の意見を含む



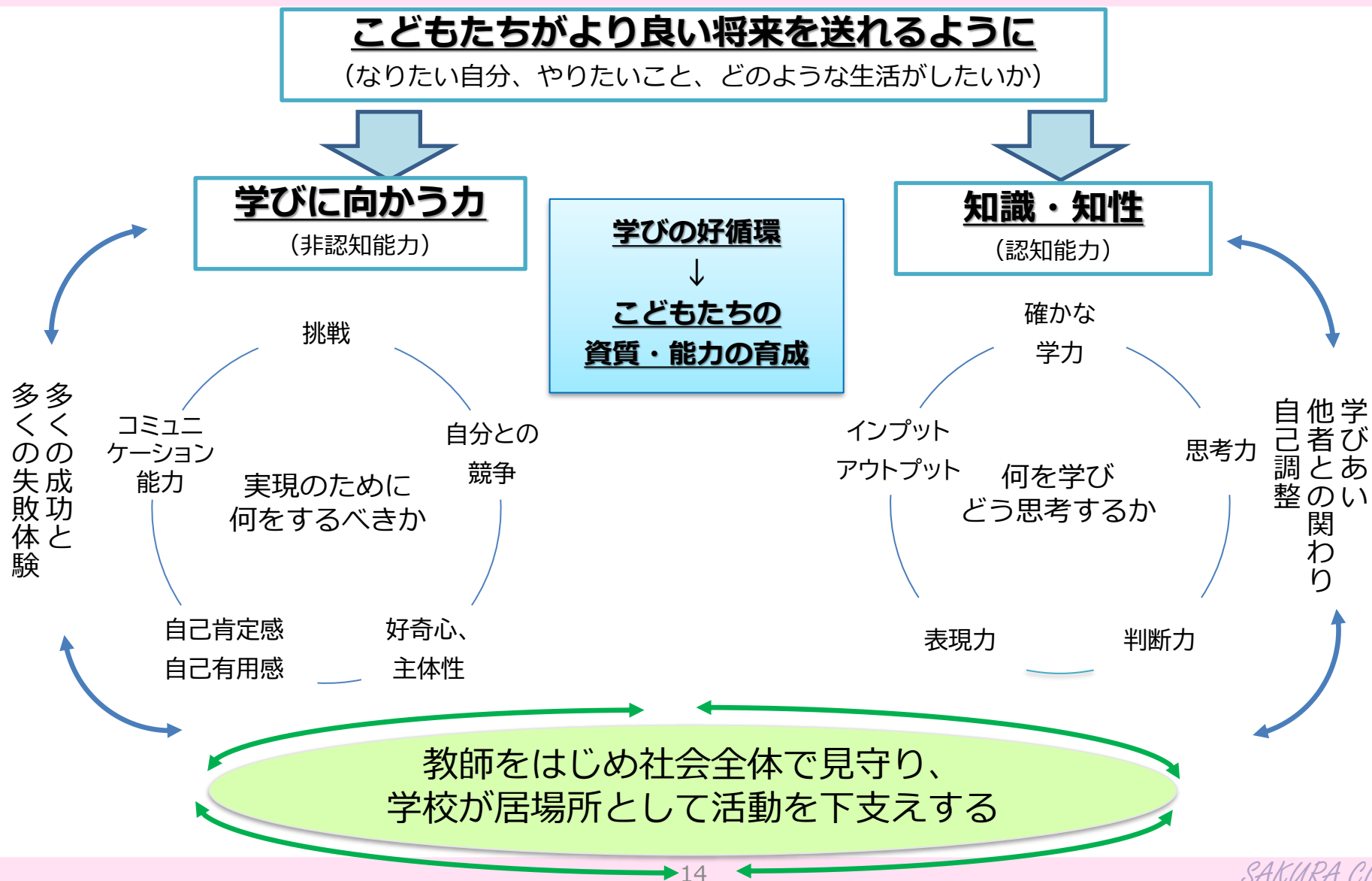
心を育てる 褒める
 好奇心 チャレンジ 主体性
 自分で学んでいく力 伸びているところを伸ばす 学び合い
 失敗から学ぶ 自分と競争

社会貢献意識
 ウェルビーイング 自己肯定感
 チームワーク 持続可能な社会の創り手の育成
 幸福感 学校や地域でのつながり 自己実現
 主体性 課題設定・解決能力
 協働性 リーダーシップ 論理的思考力
 利他性 創造力 表現力
 多様性への理解

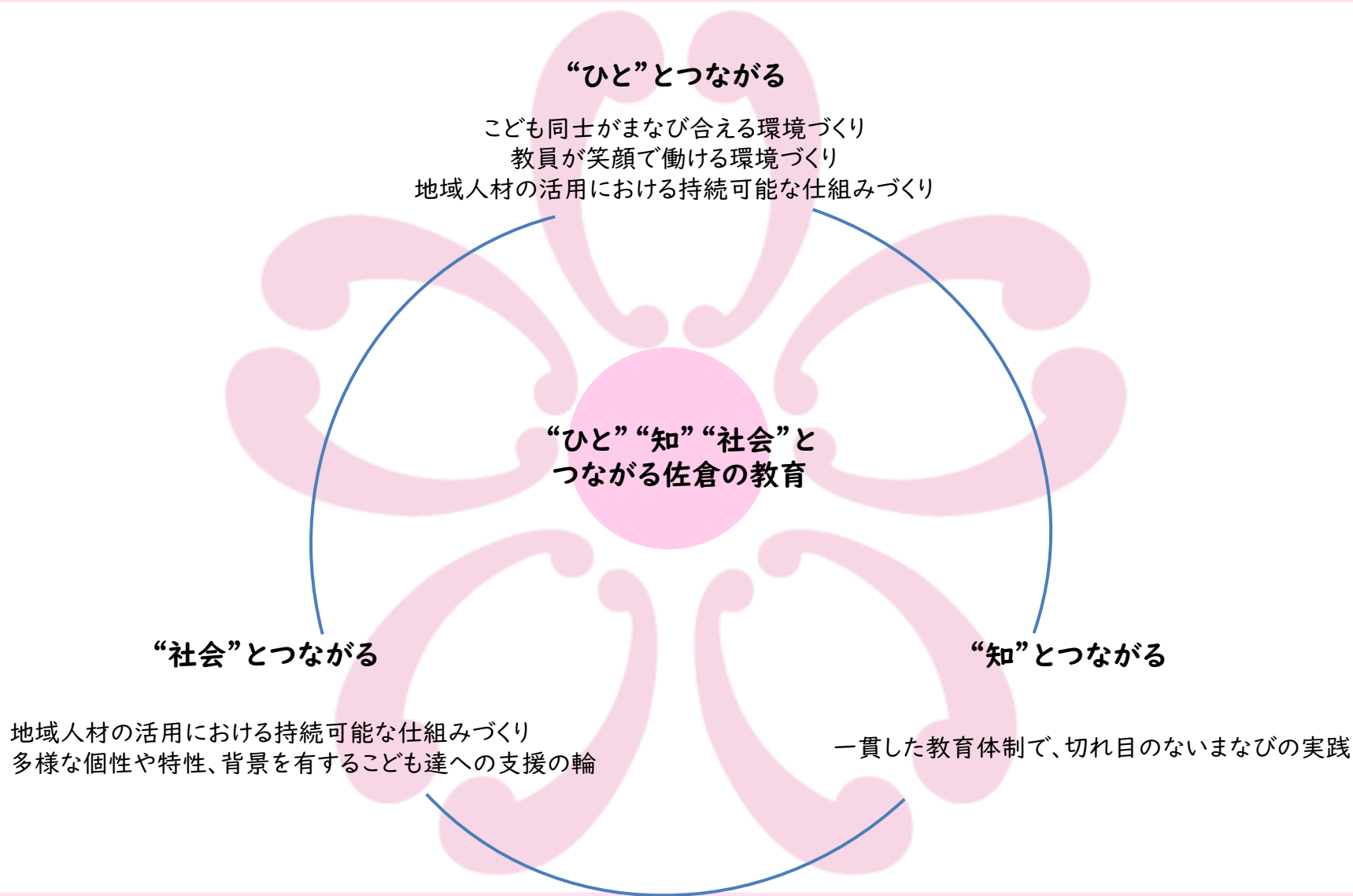
～懇話会意見から見えるキーワード～

～教育振興基本計画（国・県）から見えるキーワード～

育成したい資質・能力（学びの好循環）



第2章 目指すべきこれからの学校教育のあり方（事務局案）



第2章

目指すべきこれからの
学校教育のあり方

理想と現実のギャップ

第3章

学校教育の現状

第4章

学校教育の課題

第5章

目指すべきこれからの学校教育のあり方の実現に向けた取組の方向性

テーマごとの現状把握（第3章）



（１）児童生徒数の減少に伴う影響への対応に関すること。

- 本市の児童・生徒数は1985（昭和60）年をピークに、2025（令和7）年には約11,000人（1/2程度）まで減少し、**2060年には約4,200人（ピーク時の1/5程度）に減少する見込み**。
- 2024（令和6）年現在、小学校は5校が単学級で2060（令和42）年には**19校が単学級、中学校は5校が単学級**になることが見込まれる。
- 2024（令和6）年度の教員の年齢構成は、2007（平成19）年度と比べ、**若手教員と50代以上の教員の割合が増加**。
- 産休・育休取得者や特別支援学級の増加や臨時的任用教員等の講師の確保が困難といった背景により、**教員不足が発生**。
- 中学校では教科担任制による授業が展開されていますが、一部の教科では、**免許外教科指導を実施**せざるを得ない状況。
- 教員1人当たりの平均残業時間は、労働基準法で定める**上限45時間ラインに近くなっている**。

（５）将来を見据えた学校施設の整備に関すること。

- 築40年を超える建物は約5割であり、**老朽化が進行**。
- 児童生徒数は減少しているものの、学級数は横ばい傾向のため、**余裕教室が生まれにくい状況**。
- エレベーター設置や段差解消など、社会的に**バリアフリー化の進展**が望まれている。
- GIGAスクール構想の具現化のため、**通信環境の整備が急務**。
- 電源確保や空調整備等、**激甚化する災害に備える整備**や、光熱水費の削減に資する**ZEB化**などが求められている。

こどもたちの
資質・能力を
一層確実に育成する
ための望ましい
学校のあり方
【教育の機会均等】
【教育水準の維持向上】

（２）時代の変化に対応した最適な指導・学習に関すること。

- 令和6年度全国学力・学習状況調査結果によれば、教科の平均正答率は**全国・県平均とほぼ同程度**。主体的・対話的で深い学びを実践できていると回答する児童生徒は平均正答率が高くなる傾向。
- 授業でのICT活用や小中連携は全国・県平均より低い。
- **中学校進学時に戸惑いや不安を感じる児童生徒は約9割**。
- 小学校における**教科担任制の導入は道半ば**。
- 習得した知識を現実の事象と関連付けて理解し、根拠を持って明確に説明するなど等に依然課題がある。

（４）これからの学校と地域の関わり方に関すること。

- 保護者や地域、地元企業の方々の協力を頂きながら、**体験活動等を実施**。
- **高校生や大学生、教員OB等の方々の協力を得て、学習の支援や授業支援に参加**頂いている。
- 学校側は授業補助や環境整備、安全指導等での**支援を求めている**。登下校におけるスクールガードボランティアは**高齢化等を背景に担い手不足が懸念**。

（３）多様な教育ニーズへの対応に関すること。

- **不登校児童生徒数は増加傾向**で、学年別に見ると、小学校6年生から中学校1年生の間の**進学段階での増加**が高くなっている。
- **特別支援学級**に通う児童・生徒数は、**2005年以降急激に増加**。
- **日本語指導が必要な児童生徒も増加傾向**。
- 特別な支援を要する児童生徒が**安心して学べる環境や人材の確保が急務**となっている。

**（１）児童生徒数の減少に伴う
影響への対応に関すること。**

**（２）時代の変化に対応した
最適な指導・学習に関すること。**

**（３）多様な教育ニーズへの
対応に関すること。**

**（４）これからの学校と地域の
関わり方に関すること。**

**（５）将来を見据えた
学校施設の整備に関すること。**

（こども同士のつながり）

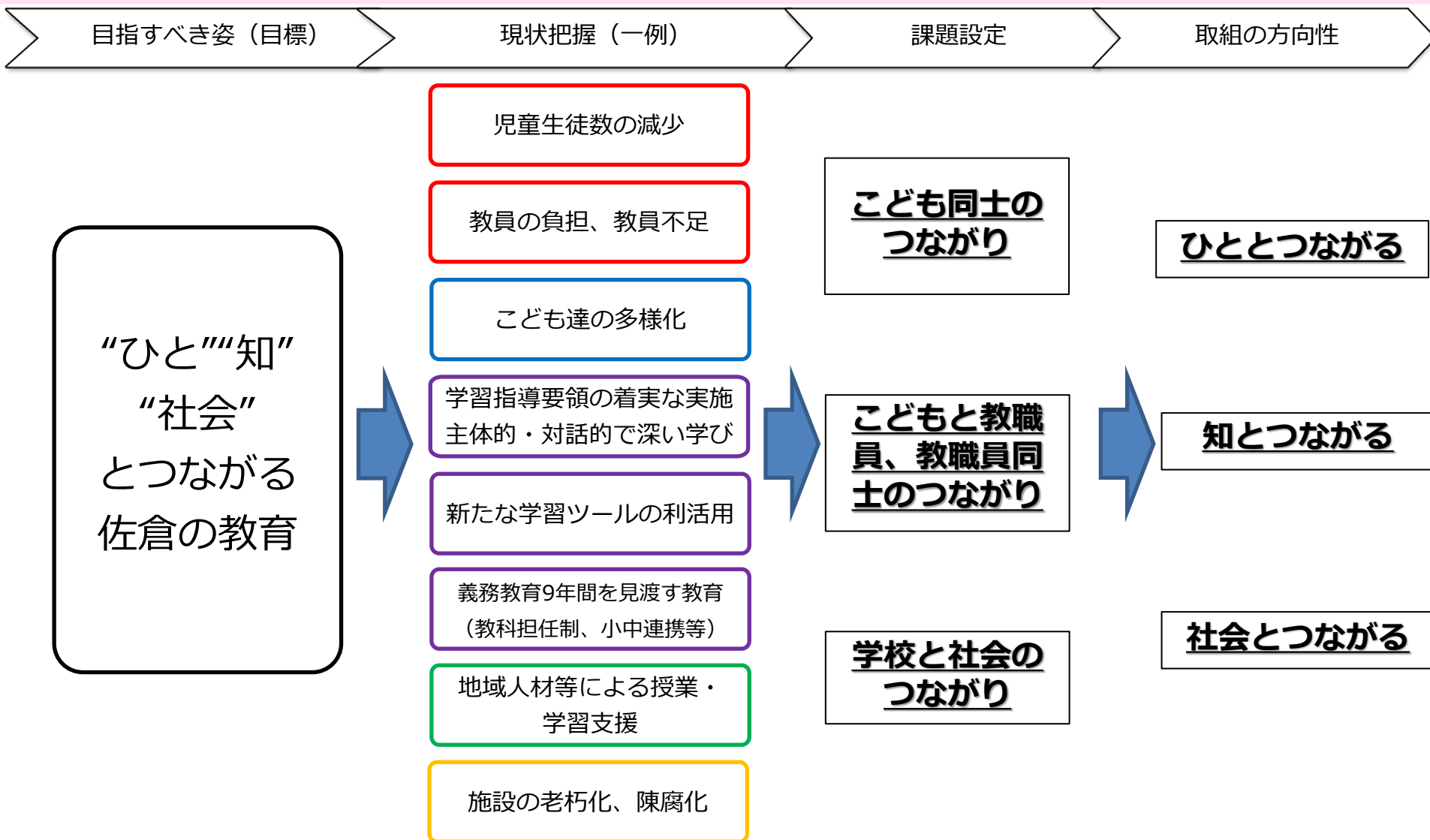
多様な他者と自分との距離感や、違いを学び、時に悩み、衝突をしながらも、触れ合うことで解決策を見つけるなどの心の成長機会や、学びに向かう力を育成できる環境、様々な個性や特性をもつこどもたちが学び場を選択できる環境の提供が必要ではないか？

（こどもと教職員、教職員同士のつながり）

こどものウェルビーイングを高めるためには、教員のウェルビーイングの向上が不可欠。教職員の働き方改革をさらに前進させ、働きたい、こどもと向き合える魅力ある環境を創出することが必要ではないか？

（学校と社会のつながり）

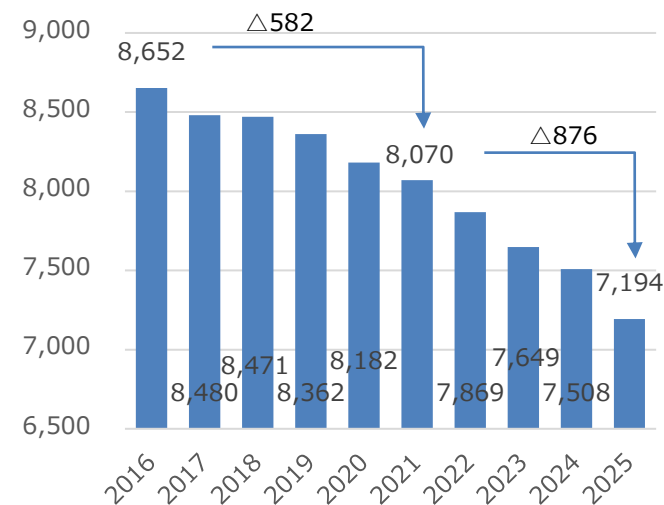
学校はこどもたちの居場所や避難所、地域のつながりの役割を担っており、安全安心を前提に、地域と学校がこどもの育成に連携・協働できる体制整備が必要ではないか？



参考資料（R7.5.1時点の児童生徒数）

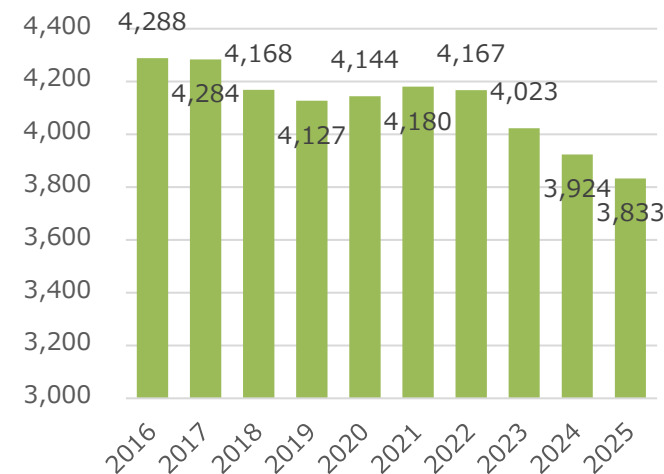
・ R6とR7年度の児童生徒数等の比較 【小学校】

	児童数 ※（）は特別支援学級 在籍児童数	普通学級数 ※（）は特別支援学級数	うち、 単学級数
R6	7,508（436）	352（82）	47/204
R7	7,194（437）	341（84）	52/204
差	△314（1）	△11（2）	5



【中学校】

	生徒数 ※（）は特別支援学級 在籍生徒数	普通学級数 ※（）は特別支援学級数	うち、 単学級数
R6	3,924（146）	120（31）	0
R7	3,833（172）	117（32）	0
差	△91（26）	△3（1）	-



参考資料（R7.5.1時点の児童生徒数）



千葉県公立小中義務教育学校学級編制基準（R7年度）

＜普通学級＞							
小学校	学年	標準	1	2	3	4	5
	1～6年	35人	～35	36～70	71～105	106～140	141～175

学校教育法施行規則

第41条 小学校の学級数は、十二学級以上十八学級以下を標準とする。ただし、地域の実態その他により特別の事情のあるときは、この限りでない。

【令和7年度 児童の在席状況（学校別学級別）】

	1		2		3		4		5		6		特別支援学級		合計		
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	通常学級	標準学級
佐倉小学校	64	2	70	2	69	2	89	3	89	3	88	3	22	4	491	15	19
内郷小学校	22	1	22	1	21	1	20	1	26	1	29	1	15	3	155	6	6
臼井小学校	30	1	25	1	23	1	39	2	42	2	54	2	16	3	229	9	12
印南小学校	26	1	16	1	33	1	25	1	18	1	34	1	12	2	164	6	8
千代田小学校	26	1	33	1	39	2	35	1	64	2	50	2	13	3	260	9	12
上志津小学校	66	2	59	2	52	2	46	2	58	2	50	2	27	5	358	12	17
志津小学校	56	2	59	2	48	2	58	2	61	2	61	2	13	3	356	12	15
下志津小学校	25	1	31	1	41	2	39	2	42	2	42	2	15	3	235	10	13
南志津小学校	38	2	51	2	41	2	44	2	47	2	51	2	24	4	296	12	16
根郷小学校	63	2	59	2	59	2	62	2	75	3	78	3	24	4	420	14	18
和田小学校	6	1	6	0.5	5	0.5	7	1	6	1	3	1	4	2	37	5	6
弥富小学校	1	1	8	0.5	4	0.5	5	1	11	1	10	1	2	2	41	5	6
井野小学校	85	3	102	3	103	3	106	4	107	4	131	4	29	5	663	21	26
佐倉東小学校	32	1	33	1	30	1	30	1	34	1	42	2	15	3	216	7	10
西志津小学校	95	3	107	4	102	3	121	4	109	4	122	4	46	7	702	22	29
小竹小学校	45	2	37	2	41	2	57	2	62	2	37	2	19	3	298	12	15
間野台小学校	57	2	66	2	56	2	86	3	75	3	66	2	28	5	434	14	19
王子台小学校	46	2	51	2	48	2	52	2	37	2	51	2	17	3	302	12	15
青菅小学校	60	2	67	2	75	3	75	3	88	3	97	3	26	5	488	16	21
寺崎小学校	82	3	87	3	74	3	89	3	71	2	76	3	36	6	515	17	24
山王小学校	21	1	30	1	17	1	18	1	27	1	20	1	6	2	139	6	8
染井野小学校	20	1	32	1	32	1	29	1	37	2	49	2	8	3	207	8	11
白銀小学校	25	1	39	2	24	1	28	1	24	1	28	1	20	4	188	7	11
合計	991	38	1,090	39	1,037	40	1,160	45	1,210	47	1,269	48	437	84	7,194	341	

※青色箇所は弾力的運用を活用した学級。黒色箇所は単独学級。小数点は複式学級。21

※合計学級数の欄で緑色の箇所は、標準学級数（学校教育法施行規則第41条（第79条にて中学校にも準用））未満の学校。

参考資料（R7.5.1時点の児童生徒数）



千葉県公立小中義務教育学校学級編制基準（R7年度）

【普通学級】											
標準		40人		～40	41～80	81～120	121～160	161～200	201～240	241～280	281～320
中 学 校	学年	標準	弾力	1	2	3	4	5	6	7	8
	1年	40人	35人	～35	36～70	71～105	106～140	141～175	176～210	211～245	246～280
	2・3年	40人	38人	～38	39～76	77～114	115～152	153～190	191～228	229～266	267～342

【令和7年度 生徒の在席状況（学校別学級別）】

	1		2		3		特別支援学級		合計		
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	通常学級	標準学級
佐倉中学校	154	5	145	4	126	4	15	3	440	13	15
志津中学校	209	6	197	6	236	7	33	6	675	19	23
上志津中学校	91	3	93	3	85	3	17	3	286	9	12
南部中学校	51	2	52	2	52	2	9	2	164	6	8
臼井中学校	94	3	102	3	88	3	14	3	298	9	12
井野中学校	187	6	169	5	161	5	21	3	538	16	18
佐倉東中学校	70	2	76	2	74	2	12	2	232	6	8
臼井西中学校	78	3	80	3	81	3	13	2	252	9	9
西志津中学校	113	4	125	4	146	4	15	3	399	12	14
臼井南中学校	91	3	96	3	114	4	16	3	317	10	12
根郷中学校	73	3	68	2	84	3	7	2	232	8	9
合計	1,211	40	1,203	37	1,247	40	172	32	3,833	117	

※青色箇所は弾力の運用を活用した学級。

※合計学級数の欄で緑色の箇所は、標準学級数（学校教育法施行規則第41条（第79条にて中学校にも準用））未満の学校。

学校教育法施行規則

第41条 小学校の学級数は、十二学級以上十八学級以下を標準とする。ただし、地域の実態その他により特別の事情のあるときは、この限りでない。